

「構成的グループエンカウンターについて」

担当 さゆりん

1. 定義と目的

構成的グループエンカウンターとは？
次の 3 つの部分から構成されている。

構成的 (structured) 枠を与える (人数、ねらい、時間など)	+	グループ (group) 集団	+	エンカウンター (encounter) 出会い、ホンネとホンネの交流
--	---	------------------------------	---	---

< 定義 >

「グループ体験を教師が意図的に組織し (= 構成的) ホンネとホンネのふれあいによる人間関係を通して、今まで知らなかった自分や他者に出会うための教育技法」

< 目的 > ホンネのふれあいと自己発見を促す

集団内にリレーションをつくること
 リレーション：お互いに相手を尊重しながら、感情交流ができる関係
 人々が自己発見 (discovery of self) をすること

自己発見とは？

今まで気がつかなかったか、気づいていても表現できなかった自分をオープンにしていくプロセス

「ジョハリの窓」で考えよう。

□ 自己ならびに他者から見た自己の領域を表す概念。(ジョセフとハリー が提唱)

	自分が知っている自分	自分が知らない自分
他者が知っている自分	A 自他共にオープンな領域	B 人に指摘されるまでは気づかない自己盲点の領域
他者が知らない自分	C 人に隠している秘密の領域	D 自分にもわからない無意識界

A	B
C	D

< 浅い人間関係 >

→ SGE 実施

A	B
C	D

< 深い人間関係 >

2. SGE の展開

4 つの柱にそって展開する。

(1) インストラクション …… 目的、やり方、ルールを教示すること

SGE の効果に大きく影響

< ポイント > どんな導入ならモチベーションは高まるか？
どうやって心的外傷を防ぐか

どういふグループ分けが適切か

(2) **エクササイズ** …… 心理的成長を促進するための課題。

構成 = 「枠」を伴う理由

不安・緊張から解放される

枠があるからこそ自由に動ける、作業しやすい、素直な自己開示ができるなど

<ねらい> 次のように分類される。

自己理解 …… 私ってこういう人間なんだなあ

自己受容 …… 短所、欠点もあるけれど、でも私にもいいところがある！

自己表現、主張 …… 自分の気持ちを上手に相手に伝える

感受性の促進 …… 相手の気持ちを察知して、行動する

信頼体験 …… 自分を信頼する、他人を信頼する体験

他者理解 …… 相手のことを受け入れる、よさを認める

(3) **介入** …… エクササイズ中の子どもの心的外傷を防ぐ。

(4) **シェアリング** …… エクササイズを通して気づいたこと、感じたことなど自分のなかに生まれた感情や考えを、自分自身のなかで、そして他のメンバーとホンネで語りあう。

言葉で表現することは体験を意識化することになり、その場限りの体験で終わらずにすむ。

3. 指導する際のポイント

より効果的に行うには

SGEは育てるカウンセリング

- ・ 教師だからできること
- ・ 資源(リソース)は生かしていく

教師自身が体験していることの重要性

よさとむずかしさの体験

リーダー自身の上手な自己開示

教師が「自分の言葉で語る」

<参考文献>

- ・ 「エンカウンター」 國分康孝 1981 誠信書房
- ・ 「育てるカウンセリングが学級を変える[小学校編]」 國分康孝他 1998 図書文化
- ・ 「教師のためのカウンセリング技術」(スクールカウンセリングの実践技術 No.1) 松原達哉他 2001 教育開発研究所
- ・ 「エンカウンターで総合が変わる」(小学校編) 國分康孝他 2000 図書文化
- ・ 「エンカウンターで総合が変わる」(中学校編) 國分康孝他 2000 図書文化